

# 分野別意見交換会報告書【総務常任委員会】

日 時： 平成 31 年(2019 年) 4 月 25 日(木) 19 時 00 分～20 時 45 分

場 所： 箕面市役所3階 委員会室

団 体 名： 地区防災委員会委員長(箕面・止々呂美・北・西・西南・中小校区)

※止々呂美・西南小校区は代理者が出席

出席議員： 神田委員長、藤田副委員長、中嶋委員、楠委員、尾崎委員、林委員、神代委員

傍聴者数： 0人

## テーマ①:地区防災委員会の取り組みや地域の課題について(昨年の災害を受けて)

番号	項目	内容
1	地区防災委員会の取り組みや地域の課題について(昨年の災害を受けて)	・取り組み…昨年の発災時には、2名の避難者があり、宿泊対応を行った。 ・課題…宿泊対応等については実績のある校区のノウハウをマニュアル化することが必要。また外国人の避難者に対しては、大阪大学外国語学部などとの連携が必要。
		・取り組み…昨年は、地震による被害は少なかったが、豪雨・台風による被害が大きかった。日常の取り組みとして、HUG 訓練を行ったが、初めての取り組みとして、対応の難しい避難者への対応(ペット等含む)を行った。 ・課題…旧村部と森町での意識の違いがあるため、地域性をどう埋めていくのかが課題、また避難所として運営していくために学校の見取り図が必要。
		・取り組み…北小校区では安否確認を目的の第一としている。 ・課題…要支援者名簿が自治会等に公開されていない。自治会未加入者の把握が必要。
		・取り組み…地域性(急傾斜地域がある為)があり、豪雨・台風等には常に避難所運営を行っている。 ・課題…現人員では学校管理者等のローテーションが困難。職員の地区防災スタッフに関しても人員増等の体制構築が必要。有償での人員配置が必要と思われる。ペットの持ち込みに関してはアレルギー対策が必要。

番号	項目	内容
1	地区防災委員会の取り組みや地域の課題について(昨年の災害を受けて)	・取り組み…半町では、全てを行政に委ねるのではなく、隣保共同の精神で防災会を設立し活動してきた。よって、災害時には極力自主的に行動するようにしている。 ・課題…防災組織については地域差がある。防災訓練は常に行っているが、実際に避難場所となる学校の教室等などの訓練が出来ない。
		・取り組み…黄色いハンカチや安否確認が定着していない。 ・課題…地域の初動体制が構築できていない。共働きの世帯の増や高齢化等による、成り手不足が深刻化しており地域としての連携・防災意識の向上が難しい。

#### ◆各校区の取り組み・課題を踏まえての自由意見

番号	項目	内容
2	地区防災委員会の役割について	・地区防災委員会の役割として重要なのは、やはり避難所の運営であるが、それ以外の役割も担っている。まずは避難された方々はもちろんのこと、地域の被災情報の確認・分析等も必要と感じている。また、最小単位である自治会でのスキームについても重要であろう。その中でも黄色いハンカチは地域を繋げるための重要な訓練であるが、1月17日の箕面市総合防災訓練については改善の余地がある。

#### ◆地区防災委員会の人数構成・避難所運営の考え方

番号	項目	内容
3	地区防災委員会の人数構成等	・地域の関係団体も参加、概ね15~25人程度での構成であり、消防OBや消防団も運営に携わっている。

#### ◆地区防災委員会における平時での話題

番号	項目	内容
4	地区防災委員会における平時の話題について	・新築の家も増えており、人口が増えている。顔の見えない時代、地域コミュニティーの強化が必要と考えている。 ・マンション等では参加していない自治会も多い。訓練の告知をマンションの管理人に配ってもらっている。自治会員以外についても把握できている世帯については地図に落とし込んでいるが、700名程度の要支援者が公開されていない。

番号	項目	内容
4	地区防災委員会における平時の話題について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪大学箕面キャンパスの移転もあるが、学生等については把握できない。自治会レベルでは対処できない問題と考えるので、自治会加入について広報などを更に強化してほしい。</li> <li>・当地域ではマンションでの自治会加入は 50 パーセント、管理組合と自治会の連携で自治会の加入推進を行った。自主防災組織の引継ぎがスムーズに行えたので参考にしてほしい。</li> </ul>

## テーマ②地区防災において市と議会に望むこと

番号	項目	内容
1	地区防災において市と議会に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所内で携帯電話の電波が入らない場所がある為に改善をお願いしたい。</li> <li>・地域の状況を市民とは違う目線で、議員として市に繋げられる超党派での組織を創ってほしい。※1</li> <li>・平時に、各地区防災委員会が機能しているかどうかの確認を行い、市に進言を行ってほしい。※2</li> <li>・強力なサポーターが欲しい。今回の意見交換会についてはすべての関係者に情報を流したい。しっかりと情報共有をしてほしい。</li> <li>・黄色いハンカチについては、いつ出していいかわからない。わかりやすく周知して欲しい。</li> </ul> <p>例→震度 5 以上とか… 摆れを感じたら等…</p>

### ※1についての今後の方向性の説明

議会としての災害対応を検討中であり、発災後・発災中・復興におけるそれぞれの役割を取りまとめている。

- ①議会としての体制構築
- ②市・市民との情報共有(議会として優先的な事象は望ましくない事もある為) 議長と市長との情報共有
- ③箕面市を 3 つの地域に分けたうえでエリア分けをし、居住している議員が自主的に状況を吸い上げる(議会の本部に伝達)
- ④各校区の情報の繋ぎを行うことが必要であり、そのやり方についての伝達機能を持つことが重要であると考えている

### ※2についての意見

議会については法的に災害時でも議会を開かなくてはならないが、どうすれば市民の皆様を応援できるかを検討している。先進地を視察してきたが、平時であっても常に訓練を行っている。議会においても、今後足りない部分を補完していくように議論が必要であると考える。

平時の活動については重要と考えており、地域に合った訓練が必要である。その一つとして、危険箇所点検の際に地区防災委員会の方も参加していただき防災的観点で進言をお願いしたい。